

令和元年度 第4回 甲賀市環境審議会 議事摘録

開催日時 令和元年 12月 3日 (火) 14:00~16:00

開催場所 甲賀市役所 4階 会議室 402

出席委員 (敬称略)

竺文彦 (会長)、中島仁史 (委員)、小林晶子 (委員)、石山利則 (委員)、
宝本正樹 (委員)、小西英明 (委員)、小倉剛 (委員)、高橋美香 (委員)
8名

欠席委員 (敬称略)

なし

事務局 (敬称略)

岡根部長 (市民環境部)、立岡次長 (市民環境部)、中島課長 (生活環境課)、
北林課長補佐 (生活環境課)、山本係長 (生活環境課)、平尾係長 (生活環
境課) 6名

会議次第

- 1 市民憲章唱和
- 2 あいさつ
- 3 審議事項
 - (1) 甲賀市の環境概要について【資料1】
 - (2) 第2次甲賀市環境基本計画の関連事業について【資料2】
- 4 次回 (令和元年度第5回) 審議会の開催について
令和2年3月に開催予定
- 5 その他

配布資料

- 資料1 甲賀市の環境概要 (平成30年度版)
資料2 第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業

会議内容

○開会

1 市民憲章唱和

2 あいさつ（会長）

3 審議事項（これより進行は会長）

（事務局）

- ・[資料1 「甲賀市の環境概要（平成30年度版）」に沿って説明]

（委員）

- ・資料1について質問や提案はあるか。

（委員）

- ・絶滅危惧種などは書かれているが、外来種は市内にいるのか。

（事務局）

- ・セアカゴケグモやミシシippアカミミガメの報告は入ってきている。ヒアリについても似たアリが持ち込まれることもあるが、鑑定結果は在来のアリとなっている。
- ・植物はオオキンケイギクの情報がある。

（委員）

- ・外来種のことも盛り込んでどうか。

（委員）

- ・大事にしなければならないもの、管理しなければならないものを市民に伝えることも大切である。

（委員）

- ・環境概要に外来種を掲載するかは、また判断いただきたい。

（委員）

- ・公共水域水質調査地図に方位と縮尺を、また、自動車騒音の報告には測定日を表記いただきたい。

（委員）

- ・公共水域水質調査地図の赤四角と青三角の凡例を示してもらいたい。

(事務局)

- ・承知しました。

(委員)

- ・P.1の2.資源ごみ・不燃ごみの新聞について、減ってきているが他の業者に持って行かれているとうことか、紙の使用自体が減っているのか。
- ・字が細かすぎて見えないところがあるので改善をしてもらいたい。

(事務局)

- ・いろいろな要因はあるが、新聞をとらない家庭やペーパーレスの流れもあると思われる。
- ・承知しました。

(委員)

- ・P.3 生ごみ堆肥化の世帯数は増えているが、回収量は減っている。どのような要因があるのか。

(事務局)

- ・参加は報告するが、止めるときは報告される世帯が少ない。
- ・食品ロスの意識が浸透し、生ごみ自体が少なくなっている。

(委員)

- ・市民向けの堆肥化説明会のときに大学の学生が調査をしていた。学生が言うには堆肥化は始めたけれどやめている人も結構いる。でも登録としては残っているので、数字上は増えている。しかし実質の数は減っているので生ごみ回収が減っていると言っていた。

(委員)

- ・P.6 野洲川上流の採水箇所は下水道処理施設の上流か下流か。
- ・この辺りは花崗岩で、炭酸成分が多く PH は大体 6.5 くらいになるが、調査の結果は高いように感じる。

(事務局)

- ・上流になる。毎年同じ箇所ですべて採水している。

(委員)

- ・石灰系の地域はアルカリ系になり花崗岩だとやや酸性になる。夏場にプランクトンが増えると炭酸ガスを吸収し、アルカリ側になる。地質とプランクトンの影響があると考えられる。

(委員)

- ・市民の関心が高い不法投棄について触れられていない。

(事務局)

- ・今後データ化していければと考える。現状としては目に余るものもある。

(委員)

- ・環境概要に掲載するか検討をしてもらいたい。

(委員)

- ・数字だけでなくパトロールして早期発見しているなど、どのような取り組みしているか表記すればより伝わりやすいのではないか。

(委員)

- ・異なる話になるが、県のホームページでのダイオキシンの測定結果の中で、基準を超えているわけではないが、衛生センターは他の所より高い。施設の古い新しいはあると思うが、管理をきちんとしたほうが良いのではないか。

(委員)

- ・施設によって数値がすごく小さいところや、それより大きい数値でも基準値は超えてないところもある。施設ごとにそれぞれ適切に管理されており、数値の推移を見ることも大切なことだ。衛生センターでも、これまでの測定結果を踏まえて、機能維持のための基幹改良工事が計画されている。ダイオキシンは過敏になりがちだが、きちんと維持管理をしているという状況が示せるようにしておくといよいのではないか。
- ・県が公表している大気の調査結果でダイオキシンを危惧する状況にはない。

(委員)

- ・ダイオキシンが問題になった時期に対策がされたあとは、外気よりきれいになっているところもあるくらいだ。定常にきちんと管理していればさほど問題はないレベルになっている。

(委員)

- ・P.2のごみ処理収支状況のグラフは文字が小さく読めない。収支状況はグラフでわかるので数字まではいらぬのではないかと思う。ただ、色分けの凡例は必要である。

(委員)

・ P.18 の空地について、どんな対応、苦勞をしているか教えてほしい。

(事務局)

・ 苦情がきたところが民地であれば、法務局の登記簿に記載されている所有者に草刈り等の依頼通知を送付する。ただ、強制力はないので草刈りされるかは所有者次第であり、また、登記簿の情報が古ければ通知が届かないこともある。

(委員)

・ 農地も空き家も連絡がつかない人が年々増えている。登記簿の変更がされてないことも多くある。他課と連携しながらなんとか対策してもらいたい。

(委員)

・ 納税情報の活用という視点もあるが、個人情報の関係や法律上の問題で部署が違くと教えてもらえないことが多い。
・ ただ、まちづくりという観点から、いろんな分野が関わる必要があるのではないか。

(委員)

・ 次の議題「第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業」について事務局から説明を願う。

(事務局)

・ [資料2 「第2次甲賀市環境基本計画にかかる事業」に沿って説明]

(委員)

・ 資料2について質問や提案はあるか。

(委員)

・ 空き家対策ではどのような事業をしているのか。

(事務局)

・ 空家対策室で空き家バンク制度を行っている。他に空き家に関する苦情対応をしている。

(委員)

・ 空き家をどう活用していくかが難しく、好条件の空き家はなかなかない。交通も不便な甲賀市にどういうふうにも人を呼び込むのかも課題である。

(委員)

・ 計画はあっても予算がついていないものがあるが、これはどのようなものか。

(事務局)

・出前講座のように、予算を伴わなくてもできる事業をあげている。

(委員)

・森林対策について、緑化促進はあるが既存の山の管理は書かれていない。管理ができていないことで生物が住みにくい森になり、絶滅危惧種が増えていく。山の管理ができないことで川に土が流れ、琵琶湖に行ってしまう。この悪循環を止められないかと思う。
・ある市民団体では持っている山を開放し、整備をしてイベントを行っている。

(委員)

・バイオマス検討委員会でも山を何とかできないかという話もあったが、産業として活用するのは難しい。山が産業として成り立てば整備もできるが、それも難しく、市民活動に頼っているのが現状である。

(委員)

・脱プラの方向でもあり、林業を見直す時期ではないか。木材を何とか応用できないか。

(委員)

・地元も森が多いが木の需要がない。手入れにはお金がかかるが、その出所がない。

(委員)

・昔は風呂の焚き木として枝等を使っており、それを拾うことが森の管理にもなっていたが、生活様式が変わり燃料としても木を使う機会が減った。
・産業として成り立つかというところで、大きなお金をかけることは難しいかもしれないが、皆が目指す方向を共有して、それぞれの立場でできることをしていくことが大切である。

(委員)

・「環境概要」について、他市町はもっと充実したものを出している。教育にも使えるようなものを、予算をつけて作ってはどうか。
・資料3 ページ目の「啓蒙」を「啓発」に訂正してはどうか。

(委員)

・環境概要は冊子で出してはどうか、検討をしてもらいたい。

(委員)

・工場との環境保全協定について、市になってからの新しい締結はなく旧町のままと認識しているが、今後そういうところにも力を入れてはどうか。

(委員)

・合併した旧町の協定等をどう引き継ぐか、順番に見直すなど計画的に見直しを行う必要がある。工場にあった内容にする必要があるため作業には時間がかかる。その中で新規何件、見直し何件というような報告ができれば良い取り組みになるのではないかな。

(委員)

・合併後新規で協定を結んでいる工場はあるのかな。

(事務局)

・協定は強制できるものではないので、全ての工場で締結しているわけではない。

(委員)

・他市だと締結事業所という看板を掲げさせているところもある。そうすれば市と事業所で締結をしているとわかりやすい。

・締結があるなら苦情への対応も求めやすいし、住民との約束事にかかる内容なら事業所にも責任を認識してもらえることにつながる。方針をたてて、できることから取り組みを進めてもらいたい。

(委員)

・その他について何か意見はあるかな。

(委員)

・高齢化が進んでおり、パソコンを触ったことのない人も多い。デジタル化だけではなく、お年寄りの知恵を拝借できるように、取り残される人のないようにしてほしい。

・絶滅危惧種の紹介もケーブルテレビではどうか。

(委員)

・油日にしかないトンボの話題など、ローカルニュースや外来種の情報なども地域のテレビなどで取り扱ってもらえればと思う。

(委員)

・環境教育をするときに、学校から生活環境課に相談しているとは思いますが、環境基本計画にかかる事業では、子どもの森とやまのこの2つになっている。積極的に学校に発信してもらえれば応える学校は多いと思う。ケーブルテレビで学校活動紹介という形で環境に関することを発信すれば、市民にも届きやすいのではないかな。

(委員)

・自分の入っている協会の勉強会で、ハザードマップの話をしてもらおうと思っている。マップを作ってホームページに掲載しても、見られない人も多くいる。アピールの仕方を

うまくしないとせっかく作ったのにもったいないことになる。

(委員)

・市町では冊子を作って配布していると思う。見に来てくださるのではなく、教えに行くということも防災の観点でやることがある。方法や内容がそれで十分かという問題はあるが、教えるという対応もしていると思う。

(委員)

・高齢者の方にハザードマップなどを伝えるときに、行政にお願いといっても、業務が多くあるので来てもらうことが難しい。むしろ、地域で自主防災会などを作り、自治会でフォローするなどの仕組み作りをすることが大切になる。

(委員)

・地域防災士は10地域に1人くらいしかいない。かかわる人が少なく人が足りない。

(委員)

・守山市では青空市で物々交換（エコリユース）をしている。新品ではないところに逆に魅力を感じる。甲賀市でもそういうマルシェが増えると、環境に対しても良い雰囲気を持っていける。

・環境に対しても、それぞれができる範囲でできることをしていけば、それが大きなつながりになると考えている。また、環境に関する啓発活動が継続してできれば、必ずその内容を持って帰ってくれる人がいる。

(委員)

・環境だけではなく、防災や高齢者、観光などが有機的につながることが大切と感じた。
・以上でよろしいか。次回会議開催時期について、事務局から提案をしてほしい。

(事務局)

・次回審議会は令和2年3月頃開催予定である。

○閉会あいさつ（中島委員）

○閉会